

20. 国際開発研究科

(1) 国際開発研究科の教育目的と特徴	20-2
(2) 「教育の水準」の分析	20-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	20-4
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	20-9
【参考】データ分析集 指標一覧	20-11

(1) 国際開発研究科の教育目的と特徴

1. 教育の目的と基本方針

国際開発研究科は、名古屋大学の教育目的である「真の勇氣と知性をもち、未来を切り拓いていく「勇氣ある知識人」」を育成することを国際開発学の分野で実現するために、「国際開発及び協力における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、国際開発及び協力における学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成する」(名古屋大学大学院国際開発研究科規程第2条)ことを教育の目的と基本方針にしている。

2. 目標と方針

国際開発研究科は「自立的研究・実務能力の育成」と「異文化理解に立脚した国際性の育成」を達成目標に掲げている。そのために全学の中期目標・中期計画にそって、次の方針を立て、目標の達成に努めてきた。

(1) 中期目標・中期計画(K2:大学院課程の教育体系を整備し、教育方法を改善する)に対応した方針や取組み

博士前期課程・後期課程の教育体系を社会のニーズに合わせて整備し、教育方法を改善する。実地研修の調査・分析手法が、修士論文・博士論文の調査・執筆に活かされるよう、実地研修の準備、実施とともに、フォローアップにも力を入れる(本研究科の中期計画K2)

(2) 中期目標・中期計画(K3:留学生等の多様な学生への教育を整備する)に対応した方針や取組み

英語や日本語での論文執筆に関する授業や講習会を開講し、生活支援も兼ねた Student HandbookやGSID実用ハンドブックを編集し配付する。(本研究科の中期計画K3)

(3) 中期目標・中期計画(K4:全学教育体制を維持し、教養教育院の機能を充実させる)に対応した方針や取組み

国際開発関連と言語文化関連科目の分担と充実に貢献する。(本研究科の中期計画K4)

(4) 中期目標・中期計画(K5:教育の実施体制・方法・結果を点検し、改善に活かす)に対応した方針や取組み

適正な成績評価法を工夫し、学生の質的レベルが一定の水準を保つようにする。またWebを使った授業支援を行う。(本研究科の中期計画K5)

3. 研究科の特徴

国際開発研究科は日本で最初に開設された国際開発関係の大学院である。国際開発協力専攻を置き、開発途上国における種々の開発課題と国際協力の実態を正しく理解し、諸課題の解決能力をもつ高度専門職業人・研究者を養成し、またフィールドワークによるデータを重視する実証的な研究能力とそれに基づく教育能力を有する高度専門職業人・研究者を養成(ミッションの再定義)している。

博士前期課程は「自立的研究・実務能力の育成」と「異文化理解に立脚した国際性の育成」を目指す。そのためにカリキュラムは、基本課題を正しく幅広く理解させる部分（研究科共通科目、インターンシップ、フィールド調査など）と特定の専門課題を深く掘り下げて解決能力を養成する部分（各プログラムの専門科目群）からなるT字型教育を実施している。また、通常課程（2年）とグローバル企業人材育成特別課程（1年）を設置している。通常過程では国際機関等で活躍したい人材を育成するための「グローバルリーダー・キャリア」コースを設けている。いずれの過程も基幹教員担当科目のほとんどが英語で実施されている。

博士後期課程は、博士前期課程で得た幅広い知識を基礎に、特定の分野をさらに深く掘り下げる。また、学術と現実社会（現場）との対応をさらに強く意識している。加えて論文執筆に結びつくような、海外での研修を推奨している。

また多様な奨学金制度による留学生や本学の海外拠点において現地の修士学位保持者に対する博士後期課程コースを提供する（アジアサテライトキャンパス）など海外の大学との連携を通じ、教育の国際展開を図っている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 4520-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第3期中期目標に含まれる内容（K1 および K2、K3）のうち、コースナンバリングの導入、成績評価の見直しを行った。また大学院の国際標準化の推進に貢献すべく、シラバス（英語）の内容の充実、グローバル企業人材育成特別課程（博士前期課程1年コース）を設置し、第一期生・第二期生を輩出した。そして、本研究科は、すべての授業を英語で行っている。[3.1]
- 修了認定・学位授与の方針は、「ディプロマ・ポリシー」で公開されている。

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 4520-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 中期目標 K1-3 に鑑み、国際人材の育成に貢献すべく、国外での実地研修を引き続き行い、実践に基づく教育の推進をすすめてきた。また国際機関におけるインターンシップの提携先を拡充、短期及び長期留学の受け入れと送り出しを行ってきた。[4.1]

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 4520-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 4520-i3-2）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 4520-i3-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- すべての授業を英語で開講するとともに、英語が母語でない学生向けに、アカデミックライティングの科目を開講している。また国内外で実施するインターン

名古屋大学国際開発研究科 教育活動の状況

シップについても、一定の条件を満たす場合には、単位として認定している。同様に、短期・長期留学についても、単位認定が行われている。[4.1]

- 博士前期課程では、全プログラムに共通の内容とプログラムの専門性を掘り下げる「T字型教育」を体系化した。博士後期課程では、中間報告会など博士論文完成までの指導体制をより明瞭化させた。[4.1]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 4520-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 4520-i4-2~4)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 4520-i4-5)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 4520-i4-6)
- ・ 指標番号5、9~10(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- すべての科目を英語で実施しており、留学生と社会人を含む多様な学生が学びやすい環境を整備している(中期目標 K4-5)。[4.1]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料(別添資料 4520-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料(別添資料 4520-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料
(別添資料 4520-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料
(別添資料 4520-i5-4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 留学生を支援する担当講師を配置し、学業と生活面でのサポートを行っている。また不定期であるが、就職説明会や卒業生による会社説明会を実施している。身体に障害のある学生が、車いすを利用する場合を想定し、1階玄関横に車いすを駐輪できる場所を確保している(中期目標 K6-7)。[5.1]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準(別添資料 4520-i6-1)
- ・ 成績評価の分布表(別添資料 4520-i6-2)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されて

名古屋大学国際開発研究科 教育活動の状況

いる資料（別添資料 4520-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 中期目標 K1 にあるように、成績評価の見直しを実施した。今後も全学的な成績評価の見直しに伴い継続して検討を行う。[6.1]
- 成績基準や学生への説明責任を明確化し、FD を通して改良を継続した。[6.1]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 4520-i7-1）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 4520-i7-2）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 4520-i7-3）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 4520-i7-4）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 4520-i7-5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 特に博士後期課程の修了判定については、学术论文の出版を要件としており、国際水準の優れた業績を残すよう指導をおこなうとともに、外部審査委員による審査も積極的に行っている。[7.2]

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 4520-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 4520-i8-2）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 中期目標全般にもかかわるが、社会人入試を継続して行い、博士前期・後期課程ともにおおむね入学定員を満たしてきた。[8.2]
- アドミッションポリシーを修正し、求める人物像をよりわかりやすく提示した。[8.1]

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 学位取得率は文系の部局の中でも高い水準を維持している。留学生の割合が多く、出身国の多様性も高く、国際教育の推進に寄与している。[A. 1]

<選択記載項目 B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 地域連携による教育活動は、国際機関に限らず、中部圏の企業および行政機関（官公庁）などとも積極的に行ってきた。グローバル企業人材育成特別課程の設置により、地域連携にこれまで以上に注力してきた。名古屋 ASEAN クラブおよび国連地域開発センターとは特に太いパイプが構築されている。[B. 1]
- 国内実地研修を通し、地域連携と教育・研究を両立させてきた。[B. 1]

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生による授業評価アンケートを毎学期末に実施し、ほとんどすべての授業において、高い満足度を示す評価がなされている。アンケートの結果は、FD にて報告され、改善方法等について議論が行われている。[C. 1]
- 毎学期に開講科目に関する授業評価アンケートを実施し、集計の後、状況を開示し、教育の向上に向けて FD を行っている。非常勤講師が担当する授業科目についても、授業評価アンケートを実施している。[C. 1]

<選択記載項目 D 学際的教育の推進>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 多様な学問領域の授業が開講されていること、多様な国の留学生が集う中で授業が行われていることから、学際的な教育は、研究科全体で推進されている。[D. 1]
- 多様な学問領域の教員が教育を行っており、オムニバス形式の授業を毎学期開講

名古屋大学国際開発研究科 教育活動の状況

し必修科目としている。博士後期課程の学生の指導に当たっては、1名の主指導教員に加え、2名の副指導教員を配置し、複数の学問領域の専門家の指導を受けることができる体制を構築している。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 4520-ii1-1～2）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 4520-ii1-1～2）（再掲）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学位取得率は、学内の他の部局に比べても高い水準を維持している。引き続き高い水準を維持していくことを目標としている。[1.1]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年、多くの学生が、企業や官公庁に就職している。国際的に活躍する卒業生も少なくない。こうした実務分野で活躍する卒業生のネットワークも拡充している。[A.1]

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 多くの学生が国際開発や協力分野で国際的に活躍している。企業に就職する学生もいるが、就職率はおおむね高い水準を維持している。[2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 4520-iiA-1）

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要（別添資料 4520-iiB-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年、一定数の学生の意見徴収が行われており、就職先で高い評価を得ている。[B.1]

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【就職先調査内容】

評価企画室が2016年1～3月に行った全学的な修了生の上長・上司等に対する教育成果調査の本研究科に関する結果によれば（11名に依頼、9名回答）、研究科の教育目標について、「身につけている」、「どちらかと言えば身につけている」という肯定的回答が回答者9名全員から得られた。上司の修了生に対する評価が高いことがわかる。[C.1]

《出典：評価企画室資料》

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号 8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。